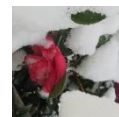


令和3年の初出勤は、雪でした。昨冬は、例年に比べ、雪が少なかったと聞いておりましたが、今冬は、例年通りのようです。



さて、現地事務所の第3回目は、かつての写真と今の写真から、復興の様子をお伝えしたいと思います（現在の写真は、全て令和2年撮影です）。



令和2年3月に全線開通した、JR常磐線。日暮里駅（東京都）と岩沼駅（宮城県）を結ぶ路線ですが、震災により、大きな被害を受けました。

津波で壊れた駅舎や線路、原発事故で避難指示区域となり、運行できなくなった区間…こちらでは、沿線の植栽が架線や線路にまで伸びています（富岡町・平成27年撮影）。

こちらは、現在の同地点→
一度は途切れた鉄路が再びつながりました。今は、
品川駅－仙台駅間の特急列車も走っています。



← JR常磐線 坂元駅（宮城県山元町・平成25年撮影）常磐線は、一部区間で、内陸に移設しました。こちらの駅は、かつての場所から内陸に移り、高架化し、橋上駅舎となりました。→



次は、現在の写真から。こちらは令和元年5月に開庁した大熊町大川原地区にある大熊町役場の新庁舎です。

大熊町は、町の中心、町民の約95%が居住していた地域が帰還困難区域となりました。町は、居住制限区域となった大川原地区に復興拠点を整備し、役場が戻りました。（写真は、平成27年撮影の大川原地区）

現在、旧役場付近は、特定復興再生拠点区域として、令和4年春頃までに帰還困難区域の一部解除、住民の帰還開始を目指し、整備中です。



福島県にも、奇跡の一本松と呼ばれた松がありました。



←南相馬市鹿島区の海岸沿いにあった松林、数万本あった松は、ほとんどが津波で流され、生き残った数本も枯死と診断されました。それでも生き残った一本が、樹齢約 100 年、この写真の「かしまの一本松」です（平成 26 年撮影）。

その後、枯死を免れないと判断されたことや付近一帯が防災林用地となったことから、平成 29 年に伐採されました。現在、この場所には、この木から採取された松ぼっくりの種子から育った苗木等が植えられています。



←こちらは宮城県との県境近くの県道です(新地町・平成 25 年撮影)。

途中で、道路がなくなっています。

現在は、道路が通り、この先には、磯山展望緑地があります。→



まもなく、東日本大震災から 10 年が経とうとしています。

今も現場に行くたび、状況が変わっています。ご紹介したように、復旧復興した場所がある一方で、福島県には、今なお、立ち入りが制限されている帰還困難区域（約 337 km²、東京 23 区の面積の約半分）があります。その一部は、特定復興再生拠点区域として、避難指示を解除し、居住できるよう整備が進められていますが、全域ではありません。



「こんなことが起こると思わなかった。でも、先人は、残してくれていた。」その言葉とともに、見せていただいた津波の浸水域が示された地図に、浪分神社の文字が…かつて、ここまで津波が来たことを示しているその神社、震災時、数メートル手前まで津波は来たそうです。

昔の人が残してくれたように、あの日とそれに続く日々やそこで学んだことを、今度は、私達が未来へ伝えていく番だと、いつも思います。